

MIRAI

[人と防災未来センターニュース]

中越の復興過程と現状を見つめる企画展	1
大大特成果普及事業中間報告会	2
鹿児島県水害調査	3
第9回ジャンボひまわりコンテスト/展示会	4
来館者の声	5
災害ボランティア実践ワークショップガイド/防災Q&A	6
センターホームページリニューアル	7
こころ豊かに、小旅行。ひと未来館・冬企画シリーズ	8

中越の復興過程と現状を見つめる企画展

「10.23 新潟県中越地震から2年。KOBÉからのエール」を開催

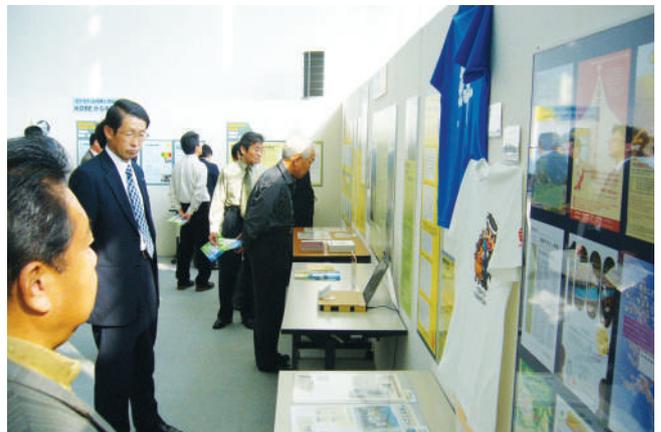
◆ 被災地KOBÉの経験と教訓を活かして

平成18年10月20日から12月10日まで、企画展「10.23 新潟県中越地震から2年。KOBÉからのエール」を防災未来館1階ロビーで開催しました。

この企画展は、2004年10月23日に発生した新潟県中越地震発生から2年を経た今、死者67人、重軽傷者4,795人、住家被害120,746棟という甚大な被害があった“中越”の復興過程や現状について、同じ被災地であるKOBÉからの視点で振り返り、今後の課題について探ろうとするものです。

会場では、被災状況の地図をはじめ、「二つの巨大地震」と題した河田恵昭センター長の比較コメントなど支援関係者からのメッセージ、災害初動の対応、避難・仮設住宅など新潟県中越地震の概要や災害の特徴について展示。また、神戸の経験と教訓がどう活かされたかを検証するコーナーでは、県立舞子高校生による災害支援活動のほか、足湯プロジェクトやFM局の多言語放送など8つのNPO・ボランティアらの活動内容を紹介しました。

今後も震災を風化させることなく、KOBÉの経験を伝え、よりよい復興へつなげていくため、当センターでは来年以降も“中越”の企画展を開催していきます。



“中越”の被災状況を伝える写真やパネルの展示。

◆ ワークショップ「中越の現状とこれからの『復興』とは」



ワークショップの様子。

11月15日には、「中越復興市民会議」の稲垣文彦事務局長をお迎えして、ワークショップ「中越の現状とこれからの『復興』とは」を開催。神戸から被災地中越の支援を続ける研究者や市民活動団体など約40名の参加がありました。「GDPや人口などの経済指標により復興を計るのではなく、『豊かさ』の指標を探しながらの復興を進めるべきではないか。」の問いかけのもとに、復興ビジョンのあり方、復興格差の問題、地域の復興と個人の復興など広く復興のあり方について参加者との活発な討議がなされました。

大大特成果普及事業中間報告会

去る10月10日、JICA兵庫国際センターにて、東南海・南海地震対策・近畿圏戦略計画の中間報告会を開催しました。

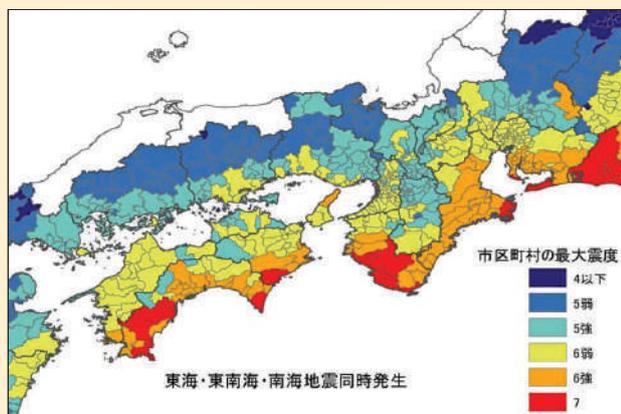
今後30年間で50%の確率で発生すると言われる東南海・南海地震。中部地方から九州地方にかけての太平洋側の地域を中心として、最悪で17,800人の死者が発生するとされています。国による東南海・南海地震対策はすでに始まっていますが、基本的にこれまでの災害対策枠組みを変えるものではありません。また、東南海・南海地震の発生確率は2035年前後にピークを迎えると予想されていますので、数年先を見据えた対策だけでなく、30年先を見据えた対策が同時に検討されなければなりません。

そこで、人と防災センターでは、近畿の7府県（兵庫・大阪・京都・滋賀・奈良・和歌山・三重）3政令市（神戸・大阪・京都）と協働で、社会が真に取り組むべき事柄について体系立てて計画をとりまとめています。この計画は、それ自体法的な拘束力はありませんが、多くの若手防災専門家の協力を得て非常に内容の濃いものになりつつあります。この中間報告会は、関係者全員で進捗状況を確認し、最終成果のとりまとめに向けた方向付けを行うことを目的として開催しました。

最初に、鈴木進吾専任研究員から、東南海・南海地震によってもたらされる災害としての特徴が示されました。この地震では参加府県下における全市町村が一斉に災害対策本部を立ち上げる事態になることが予想され、その全体のコーディネートはこれまで我が国が体験したことのない規模になることなど、本事業の取り組みの必要性が示されました。

その後は、以下の6つのテーマごとに参加自治体職員がこれまでの検討結果を報告しました。本事業は今年度までで終了する予定で、来年2月22日には、大阪メルパルクホールにて最終報告会を開催することとなっています。

東南海・南海地震発生時の各市町村の想定最大震度



【分科会テーマ】

1. やや長周期の強震動による社会資本への被害予測と対策の確立
2. 住宅の耐震化戦略の構築
3. 広域災害を視野に入れた連携体制の構築・効果的な危機対応を可能にする情報システムの開発
4. 要援護者の避難対策も含めた総合的な津波避難対策の提案
5. 長期的視野に立った戦略計画の策定と防災事業の推進・複数の震災が連続して発生する場合での最適な復旧・復興戦略
6. 中山間地域・中小都市の再生を視野に入れた防災のあり方の提案

鹿児島県水害調査

今年7月下旬、九州から本州付近に延びた梅雨前線による豪雨が各地を襲い、一週間の総雨量が、北陸地方・長野県では多いところで600ミリ、九州地方では多いところで1,200ミリを超えました。計画高水位（堤防を設計する基準となる水位）を超過した川内川で甚大な被害が発生した鹿児島県を、近藤民代専任研究員・平山修久専任研究員・川西勝研究調査員の3名が7月27日・28日の2日間にわたり訪れ、被災地の視察と被災自治体に対する聞き取り調査を行いました。

研究員の率直な感想として、これほどの被害をもたらした豪雨水害で死者数が県内5名にとどまったことは意外だということがあげられました。たとえば、菱刈町では土砂崩落によって家屋が倒壊して65歳の女性が亡くなっていますが、その隣家の女性の証言では、当時避難勧告が出ていたことはテレビの報道で知っており、用水路からも水が溢れていたが、切迫した危険は感じなかったため家にとどまっていたとのこと。裏山から「パチッ」という音が聞こえた直後に土砂が家に達しており、「家の中を右往左往するのが精一杯。倒壊したら助からなかった」と振り返っていらっしゃいました。避難勧告は広報車で行われたようですが、それは河川の水位上昇に伴う危険を知らせるもので、民家の裏山に土砂崩れの危険性があるという情報は住民には届いていなかったのです。ただ単に避難指示や避難勧告を出すだけでなく、住民に呼びかける際にはどの程度危険性が高いのか、どのようなことが起こる可能性が高いのかということについて具体的なイメージができる方法で情報を伝達

する必要がありますと感じました。今回の豪雨災害から学べることは、行政は、どのような情報をもとにして危険性を把握し、避難指示・勧告をどのタイミングで出すかということについて十分に検証しておく必要があるということです。また、住民は、雨の降り方などから災害の状況を把握し、自ら早めに避難行動に移すなど、いつ、どこで、どうすれば安全なのかを一人ひとりが平時から考えておくことが重要となってくるでしょう。



湧水町の小学校で地元のボランティアによる片付け・清掃活動（06年7月27日撮影）



さつま町（左は平山専任研究員）



土砂崩落によって倒壊した家屋（死者1名、菱刈町）

ひまわりの背丈を競う 第9回ジャンボひまわりコンテスト

人と防災未来センターでは、毎年、ひまわりの背丈を競う「ジャンボひまわりコンテスト」を開催しています。今年は宮崎県の中島誠さんの作品が6.8メートルと過去最高記録で第1位に輝きました。このほか、新潟県中越地震の被災地である旧山古志村からの応募も含め、全国各地から61点が集まりました。

また、今年度からの新たな試みとして、ひまわりがくれる元気をみんなで分かち合い、もっと多くの人に笑顔届けたいとの思いから、庭や街に咲いたひまわりにまつわるエピソードを募集した「わたしのひまわりものがたり」展も併せて開催。全国各地から201点の応募があり、当センターで選考の結果、24名の作品に特別賞を授与しました。



展示会場の風景。



10月21日には表彰式も行われた。



展示会

人と防災未来センターでは、より多くの方に当センターの活動内容を知っていただくため、イベント等に出展し、普及啓発に努めています。今回は、この秋に出展した2つの展示会を紹介します。

震災復興のあゆみ展

兵庫県では50年ぶりとなる「のじぎく兵庫国体」の開催にあわせて、開会式と閉会式の当日(9月30日、10月10日)に、神戸総合運動公園にて「震災復興のあゆみ展」を開催しました。

センターの施設概要や震災資料についてパネルで紹介し、非常持ち出し品チェックリストの配布も行いました。防災未来館で上映している「1.17シアター」のダイジェスト映像を真剣に見る選手の姿も見られました。

また、国体開催期間中には選手をはじめとする国体関係者の方がセンターを訪れ、震災について学ばれました。



ふれあいフェスティバル

10月28日・29日の2日にわたり丹波市にある丹波の森公園において開催された「ふれあいフェスティバル2006」に当センターも出展し、防災グッズの紹介と販売を行いました。

数あるグッズの中で人気があったのはアルファ米やパンの缶詰などで、「何を揃えたらいいかわからない」と、参考に非常持ち出し品チェックリストを持ち帰る方も多数いらっしゃいました。



来館者の声

防災未来館

- 阪神・淡路大震災によって、大都市が、大きく荒廃したことを見て、本当に、心が痛みました。人と防災未来センターの展示は、この地震によって、尊い生命をなくされた方々に対する、鎮魂の碑であって、生きている人々に、震災の記憶を呼び覚ませるものであり、将来の世代に対して、貴重な教訓を与えるものです。私達は、災害から、完全に逃れることは出来ませんが、災害に対して、できるだけだけの備えをしておく必要があります。

(モルジブ)

- 今でも地震のことに興味をもち、TV番組など良く見たが、ここで見たものはどれよりも私にすさまじく辛く、涙が止まらないものだった。

いろんな映像を見て(特に建物などが崩壊)大切な人たちの顔がうかんだ。そしてこの時の被害者の叫びが聞こえたような気がした。今、私は防災セミナーに参加しているが、しっかりと学び実際に動けるリーダーになりたい。

みんなと協力して助け合いたい。

(17歳 女性 愛知県)

- 今日、地震が起きる映像を見てとても心が痛くなりました。こんなにも心を痛める私がいるなら、被害にあった人達の苦しみは・・・はかりしれないものだろうと思いました。

私は、関東から神戸へ来ました。今では、きれいな街が私の目には映っています。

一生、写真や展示してある物を見て忘れることはないと思います。

簡単に死にたいなどと口に出している自分がバカだと思えます。死にたくないって思いながら亡くなった人達のことを忘れることはないでしょう。

(21歳 女性 茨城県)

- 結婚する彼が体験した震災を少しでも知ろうと思ってきました。全てのコーナーで胸がつまる思いでした。そこから生き抜いてきた神戸の人達の生きる力にとっても感動しています。彼はまだ震災の事を多く語りません。時々話す様子はあまりにも悲しい事、そしてボランティア、人々の優しさも伝わります。子どもがいれば、神戸のことを知るためにここに連れてきたいです。

(26歳 女性 沖縄県)

- 今日初めてこの防災センターを訪れました。近くに住んでいるのに、正直、震災を経験している私にとっては今では辛く来るのが恐かったからです。(東灘区で被災しました)

でも、今日小3になる息子と共に震災体験車で震度7を経験し、子供にも忘れてはいけないことを体を心を刻んで貰おうと来ました。

久しぶりに映像を見て、又、亡くなった友達の名前を新聞記事で確認し、改めて1歳の子と亡くなった友達の分まで生きていこうと決意しました。もう二度とこのような事が起こらないよう日々祈り生きていこうと思います。

(40歳 女性 兵庫県)

ひと未来館

- リズムはみんなと合わせるのを失敗したら赤くなるのが面白かったです。映画では3Dメガネをかけたのですごく迫力がありました。お話もすごく感動しました。また来たいと思います!!

(大阪府和泉市・11歳・女性)

- 一年前ここに来て、また来たいと思っていたので来られて良かったです。

(姫路市・12歳・男性)

- すごくやすらぎがありました。音楽がとても楽しかった。愛もあふれていました。

(匿名)

- はっぱのフレディはとてもわかりやすく子どもたち、私たち老人にとっても良かった。多くの子どもたちに見て欲しいです。

(主婦)

- 葉っぱのフレディの映像を観て、改めて生きる事の意味や素晴らしさを考え直すことができました。人の命も限りがあるからこそ一日一日を大切に生きられると思うし、私自身将来が見えず落ちこんだりしていたのですが、この映像を見ていまやれることを一生懸命頑張ろうと思えました。

(明石市 25歳・女性)

災害ボランティア実践ワークショップガイド

人と防災未来センターでは、平成15年度から17年度の3か年にわたって「ボランティアコーディネーターコース」という研修を実施しました。

このコースの実施にあたっては、災害救援や震災復興に関わってきた市民活動団体、大学の研究者、ボランティアの受け入れ等に関わってきた社会福祉協議会、生活協同組合などの民間公益団体関係者の協力を得て企画委員会を組織し、受講者が災害対応力を身につけられるプログラムを検討しました。その結果、受講者自らが主体的に実践の「場」に参加していく「ワークショップ」という学習手法を中心としたコースが構成されました。

さらに、本コースを実施していく中で、受講者が災害対応力を向上させていくことに加え、このコースで得た学びを持ち帰り、受講者自らが地元で研修を企画・実施してもらえるようになってほしいという企画委員会の声を受けて、コースで実施したワークショップが再現できるような教材をつくらう—ということとなり、冊子『災害ボランティア実践ワークショップガイド』が生まれました。

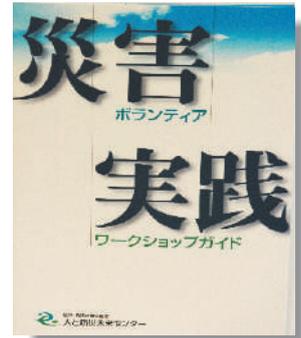
この冊子では、まず第1章で「ワークショップのすすめ」として、災害のイメージを持ってもらえるような素材を丁寧に取り上げ、つづく第2章で「ゲームをはじめの準備」としてワークショップの基本を解説しています。そして本書のメインとなる第3章・第4章では、「避難所の糸ほぐし」・「避難所運営ゲーム」と題する実践を通して、事前の準備からワークショップを進めて行く手順について詳しく解説しています。



また、補章として、実際にセンターで「避難所の糸ほぐし」を行った様子を掲載しています。ここを読んでもいただければ、ワークショップがどう展開していくのか、そのプロセスがイメージできるでしょう。

さらに、資料編として、「ワークショップキット」を収録しています。拡大コピーをすればすぐ使えるような形で、ワークショップで使う「小道具」を用意していますので、ぜひ活用ください。

このガイドは、防災・減災をはじめ福祉・環境など、安全・安心な地域社会に向けて取り組んでいる市民活動の関係者をはじめ、社会福祉協議会や行政の職員、さらには地域で自主防災組織を運営している方を想定して作成しました。ワークショップを企画したり実施していくのは、最初は大変だと感じるかもしれませんが、参加者との協働を伴う作業は楽しくもあり、参加者同士で思わぬ仲間意識が生まれたりもします。本書を通じて、そうした楽しさの一端を感じていただければ、と思います。



『災害ボランティア実践ワークショップガイド』を、ご希望の団体及び個人の方に無償で配布します（ただし、郵送料はご負担いただきます）。詳しくは当センターホームページをご覧ください。
(URL: <http://www.dri.ne.jp/kensyu/index.html>)
お問い合わせ先 人と防災未来センター 事業課
(078) 262-5068

防災 Q & A

Q

液状化被害について教えてください

(①液状化になりそうな場所 ②液状化が起きた土地の状態 ③震災時の液状化被害)

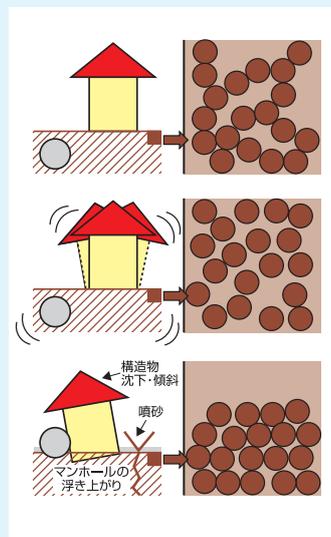
A

①液状化現象は、一般に海岸近くや川沿いの、水を十分に含んだ緩い砂地盤の土地で発生します。現在は近くに海や川がなくても昔は海や河川だった地域もあるので注意が必要です。

②砂粒子は普段はかみ合い安定していますが、地震等により震動を繰り返すことで、図のように互いに離れて水に浮いた状態になり、まるで液体のようになります。このとき過剰な水圧が

発生するので、水が土砂とともに泥水となって地表面に噴き出します。地盤は最終的に、地表面に噴き出した水の量だけ沈下します。

③液状化により、地盤上に建てられた構造物は沈下・傾斜し、地中に埋設されたマンホール等の軽い構造物は浮き上がります。



人と防災未来センターホームページ リニューアル

このたびセンターホームページをリニューアルしました。掲載内容を一新しましたので、ぜひご覧下さい。



<http://www.dri.ne.jp>

- 「センター概要」 センターのミッション、センターニュース、友の会、出版物 など
- 「観覧案内・展示ガイド」 フロアマップ、予約申込の様式のダウンロード、企画展の案内、来館者の声、モデルコース など
- 「資料収集・保存」 資料室の概要、資料の検索、資料室ニュース、復興史、震災と復興のデータベース、震災を語り継ぐ など
- 「調査研究」 研究員の紹介、各プロジェクトの概要、研究成果、災害調査レポート、調査研究レポート など
- 「研修事業」 研修の概要、事業実績、募集情報 など
- 「交流ネットワーク」 国際防災・人道支援協議会、災害メモリアルKobe など
- 「お役立ち」 災害に関する豆知識、災害情報リンク集 など



センターのホームページリニューアルに伴い、資料室のページも「資料収集・保存」のページとして更新されました。リニューアルにより、資料室紹介・震災資料の検索・GISなど震災資料に関するさまざまな項目にアクセスしやすくなりました。

また、新しく『震災と復興のデータベース』『震災を語り継ぐ』がご覧いただけるようになりましたのでぜひご利用ください。

ここでは『震災と復興のデータベース』をご紹介します。

震災と復興のデータベース

『震災と復興の記録—デジタル資料室—』では、統計データや映像・写真・音声で震災をふりかえることができます。



「映像と音で見る阪神・淡路大震災」では、震災に関する動画・写真・音声を見ることができます。

「復興のあゆみ」と題した動画には、1995年から2004年までの10年間の動きが1年ごとにまとめられています。「定点撮影～被災直後と現在～」では、同じ場所の被災直後と復興後の写真を見比べたり、震災当時の街の音声を聞くことができます。

「データで見る阪神・淡路大震災」では、被害状況から自主防災の組織率まで13種類の統計を見ることができます。

**ぜひ一度
ご覧ください！**

人と防災未来センター資料室

阪神・淡路大震災や防災に関する資料を調べたい—そんな時は人と防災未来センター資料室をご利用ください。

資料室は、無料でご入室およびご利用いただけます。

電話による問い合わせは078-262-5058（資料室直通）まで。

開室情報

- 開室時間 9:30～17:30
(夏期7月～9月は18:00まで)
- 閉室日 毎週月曜日
(月曜が祝日の際は翌日休)
- 年末年始 (12月29日から1月3日)

こころ豊かに、小旅行。

ひと未来館・冬企画シリーズ

この冬、ひと未来館では心躍る多彩な催しをご用意しました。ぜひご家族おそろいでいらしてください。

12月26日(火) → 1月21日(日) ふれあい企画 **なつかしい遊びとわらべうた** ～いっしょに楽しもう!

「お手玉」「けん玉」など、昔懐かしいおもちゃや、歌い継いでいきたい「わらべうた」などを紹介。歌を口ずさんだり、楽しく学びながら、参加者同士交流し、伝えられてきた日本の文化に親しんでいただけます。

期間中、すくろくづくりワークショップ(1月14日)や、交流プログラム『わらべ歌で遊ぼう!』(1月4日～7日)なども開催します。

1月23日(火) → 3月11日(日) 文芸企画 **ことばはかけがえのない宝物。「ことばの旅」**

「『ことばがなくては〇〇ははじまらない。』の〇〇に当てはまることばを3つあげよ。」「これだけは知っておきたい文学の名節(古典から現代文字)」など、「ことば」にまつわるさまざまな設問を設定した展示企画を開催。クイズに挑戦してもらうような感覚で参加体験していただけます。

3月13日(火) → 4月15日(日) 企画展 **小さな未来展2007**

『あしたへ向かって』公募写真展

「明日へ向かう」のテーマをイメージした写真(人物の写真)を公募し、選ばれた優秀な作品は「あしたへ向かって」のコーナーに2年間をめどに常設展示いたします。また、「わたしたちの未来ビジョン」をテーマにしたセミナーを会期中、2回程度開催します。

※場所は3階ふれあいステージを予定しています。
※お問い合わせは、人と防災未来センター企画運営部へ。

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-2
TEL:078-262-5502 FAX:078-262-5509
Eメール:hhc@dri.ne.jp

「友の会」会員募集

人と防災未来センター友の会は、センターの活動に協力し、連携しつつ社会の防災力の向上に寄与することを目的に設立し、活動を行っています。

会員特典

1. センター無料入館
2. 招待券進呈
3. 情報提供
4. 各種行事に参加 など

10月以降に入会された方は半額になります。
お問い合わせ (078) 262-5060
普及事業部総務課内 友の会事務局

年会費

個人会員 3,000円

法人会員 一口 50,000円

郵便振替: 00940-2-160211

口座名: 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター友の会



【人と防災未来センターニュース】 Vol.20

発行/ 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

お問い合わせ先

(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念



〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
総務課/ TEL.(078) 262-5060
観覧案内/ TEL.(078) 262-5050
ホームページアドレス/ <http://www.dri.ne.jp/>

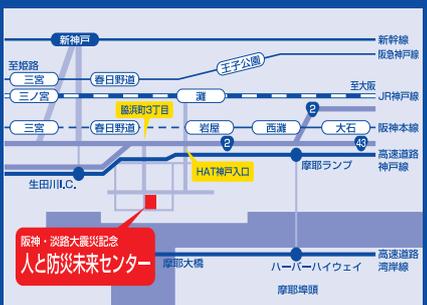
- 開館時間 9:30～17:30(入館は16:30まで)
ただし、7～9月は9:30～18:00
(入館は17:00まで)
金・土曜日は～19:00(入館は18:00まで)
- 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)
年末年始の12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク(4月28日～5月5日)期間中は無休

●入館料金(団体は20名以上)

区分	防災未来館		ひと未来館		両館	
	個人	団体	個人	団体	個人	団体
大人	500円	400円	500円	400円	800円	640円
高校・大学生	400円	320円	400円	320円	640円	510円
小・中学生	250円	200円	250円	200円	400円	320円

※兵庫県内の小・中学生はココロカードを提示すれば無料。
障害をお持ちの方及び兵庫県内在住で65歳以上の方は上記の半額。障害者手帳又は年齢・住所のわかるものを提示ください。

交通マップ



- 交通 鉄道/阪神「岩屋駅」「春日野道駅」から徒歩約10分・JR「灘駅」南口から徒歩約12分。阪急「王子公園駅」西口から徒歩約20分。バス/JR・阪神・阪急・神戸市営地下鉄「三宮駅」から約15分。神戸市営バス 三宮駅前から約1時間間隔で運転。阪神電鉄バス 三宮駅前から約30分間隔で運転。車 /阪神高速神戸線「生田川ランプ」から約8分、阪神高速神戸線「摩耶ランプ」から約4分、阪急・阪神・JR「三宮駅」から約10分。

■駐車場 有料駐車場(普通車100台駐車可能)このほか近隣にも有料駐車場があります。

■バス待機所 予約制/無料 観覧予約時に待機所利用のご予約をお願いします。

ご意見・ご感想は事務局まで。